

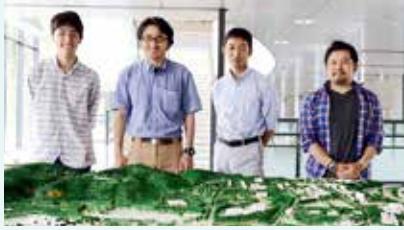
東西線沿線の魅力が広がる！ — 市民企画イベントを開催

東西線の各駅周辺にはさまざまな魅力があふれています。開業に先立ち、国際センター駅周辺で行われた市民企画のイベント取材しました。



国際センター駅の様子
◀開放感あふれる多目的スペース

▼屋外テラスには、ピクニックツールのハンモックも登場



ピクニックパレード実行委員会の豊嶋さん（左から2人目）



5月31日から6月6日までの1週間、国際センター駅や広瀬川、西公園などを会場に「ピクニックパレード」が開催されました。

これは、地下鉄東西線と広瀬川が交わる地域を拠点に、さまざまな団体が行っている催しを一堂に集めたイベント。東西線沿線の魅力を発信しようとして活動している「東西線まちづくり市民応援部」の部員たちが企画しました。「緑豊かな自然が広がる国際センター駅周辺は、歴史的建造物や文化・学術施設なども立地し、杜の都・仙台を象徴する地域です」と話すのは、ピクニックパレード実行委員会の豊嶋純一さん。「散策したり、ゆったりとたたずんだりしながら、周辺の魅力を体感するきっかけになれば」と、企画の狙いを話します。

多様な「ピクニック」が展開された1週間。広瀬川周辺では、河岸段丘について学びながら散策し、水辺の生き物を調べたり、西公園では子どもたち自らが遊びを創造して、チャレンジしたりと、子どもから大人まで思い思いに楽しめました。参加者からは「都心のすぐ近くで非日常の空間を味わえ、新鮮だった」「これまで知らなかった楽しみ方を発見できた」などの感想も聞かれました。また、国際センター駅2階は、コンサートや紙芝居の上演会場として人々の集いの場に。今後も市民の憩いの空間として活躍しそうです。

「開業後は、駅を通過点として利用するだけでなく、日常的に立ち寄る場所とし、また周辺にも足を運んで欲しいですね」と語る豊嶋さん。「駅周辺を回遊しながら、空間をどのように活用し楽しんでいくか、みんなで知恵を出し合っていて、東西線沿線の新たな魅力を創造していきたいです」と期待を込めていました。



大橋のたもとでは、水辺の生き物を観察。「ヤゴを発見！」